

# 急成長を遂げるJトラストグループ セカンドステージへ向け、国内最大規模の「ライツ・オフリング」の実施を発表

金融事業を中核に不動産やITシステムなど、幅広い分野で事業を展開し、革新的なサービスを提供することで高い成長を遂げているJトラストグループ。さらなる成長段階へ到達する戦略のひとつとして当社はこの度、「ライツ・オフリング」と呼ばれる手法を用いて資金調達することを発表しました。当社の成長の軌跡を振り返るとともに、今後のビジョン、そして「ライツ・オフリング」の概要などを紹介します。

## 急成長を遂げた過去6年間の軌跡

## 2008~2013

### 営業利益は08年比約600倍に

右図は当グループの2008年以降の営業収益と営業利益を表したものです。代表取締役社長である藤澤信義がTOB(公開買い付け)を実施した2008年3月期をベースにすると、2013年3月期は営業収益で約17倍、営業利益で約600倍という著しい成長を遂げています。

この高い成長の原動力となった要因は、大きく5つあります。まず債権買い取りやM&A(買収・合併)を行う経営戦略を積極的に展開してきたこと。

2つ目に金融機関からの借り入れに

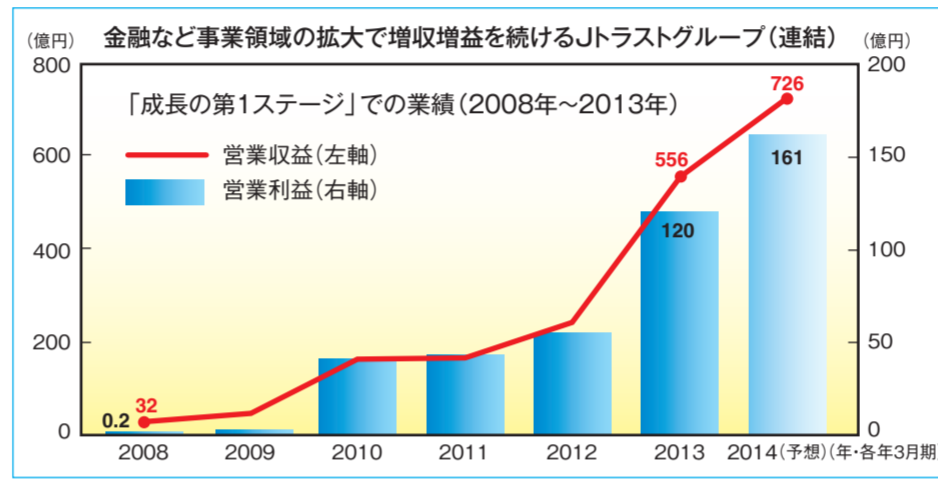
依存せず、キャッシュフローを重視した経営を行うことにより、適正な手元流動性資金を確保することで機動的、かつ効果的な債権買い取りやM&Aを実施できたことです。

### 迅速な意思決定が業績に反映

3つ目にM&Aの実施後、リスク管理を基本とした事業運営により、その成果を早期に業績に結びつけてきました。そのために、迅速な意思決定を可能とする体制を構築し、外部環境の変化に対応しつつ主要な経営課題に取り組んできたことが4つ目の要因です。

最後に不動産評価を含むこれまでに蓄積された与信審査ノウハウにより、貸し倒れを極力抑えた有担保や無担保

の貸し付け、信用保証により信用リスクをコントロールしつつ収益の拡大を図ってきたことが挙げられます。



### 成長をもたらした5つの要因

- 1 債権買い取りやM&Aに対する積極的な経営姿勢
- 2 金融機関からの借り入れに依存しないキャッシュフロー経営
- 3 リスク管理を基本とした事業運営
- 4 迅速な意思決定体制
- 5 与信審査ノウハウの蓄積に基づく信用リスクの管理能力

中核事業である金融事業の事業基盤強化と同時に事業規模及び事業分野の拡大を実現

## 真の成長を実現するセカンドステージへ

## 2013~

### 国内金融事業を一層強化

当グループは過去6年は会社の基礎を作り上げてきた期間であり、いわば成長のファーストステージで、これからの成長のためのセカンドステージは、さ



Jトラスト株式会社 代表取締役社長  
藤澤 信義

まざまな世界基準の経験者の叡智を集結し、会社を発展させていく期間と考えます。

セカンドステージの成長戦略の中核は、国内金融事業のさらなる強化です。まずは、信用保証事業の拡大。現時点では地方銀行を中心に6行と保証提携を行っておりますが、さらに提携先金融機関を増やしていく計画です。

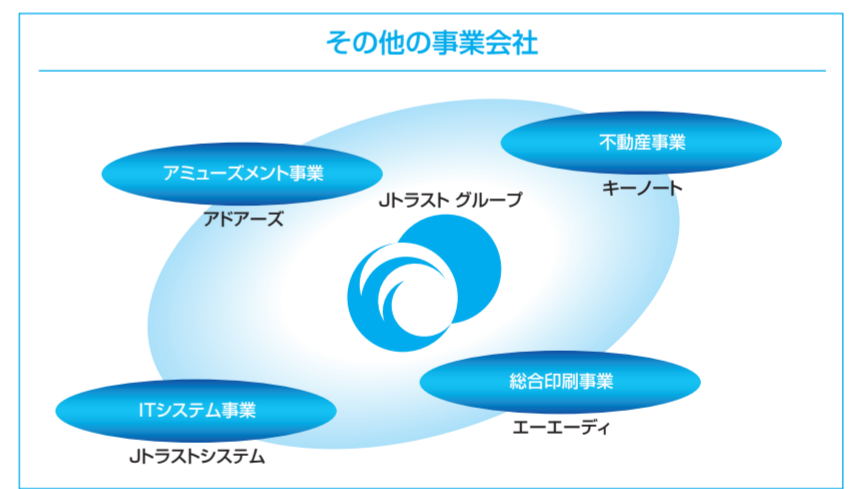
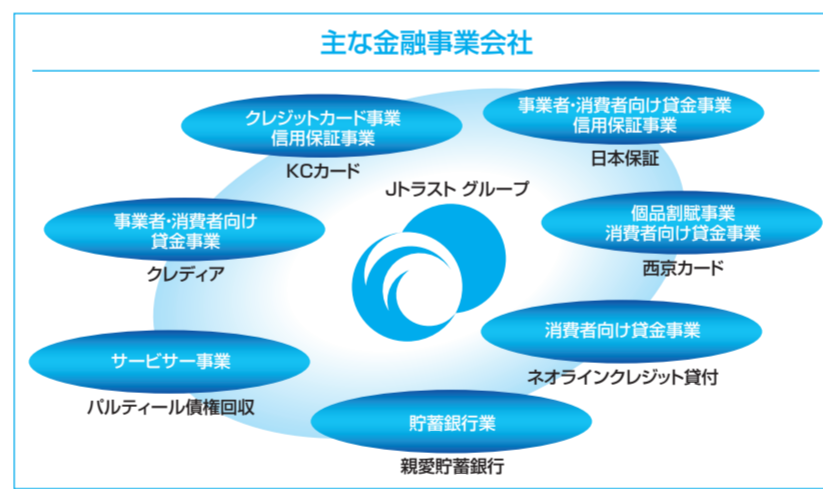
事業者・消費者向け貸金事業の分野では、これまで同様、債権の買い取りやM&Aを継続していきます。今後はより中長期的な視点に基づいて取り組む必要があるでしょう。

### 「量」と「質」の向上を追求

さらにクレジット事業を含む貸金事業

の再編という時流を見据えた債権の買い取りやM&Aを実施するとともに、クレジット会員の増加だけでなく、決済の金額を増やすなど、「量」だけでなく、「質」の追求も目指していきます。さらに金融事業の海外展開も本格化

していきます。国内で確立したビジネスモデルを進出地域の風土や法規制に応じてカスタマイズし、利益率の高い事業展開を目指します。国内のその他の事業では、不動産事業やアミューズメント事業に一層注力していきます。



### 国内金融事業のさらなる強化を目指す 4つの柱

- 1 信用保証事業の拡大
- 2 事業者・消費者向け貸金事業におけるM&A・債権買い取りの継続
- 3 クレジット事業を含む貸金事業の再編
- 4 クレジット会員の増加とサービスの向上「質」と「量」の充実

## 「ライツ・オフリング」で最大1,119億円の資金調達を目指す

今回のライツ・オフリングによるエクイティ・ファイナンスは、付与される新株予約権の全てが行使された場合、最大1,119億円の資金調達を行うことになります。資金調達の目的は、債権の買い取りやM&Aを実施するための機動的な手元資金を確保することと、自己資本の充実を図ることです。

### ライツ・オフリングとは...

新株予約権(予め定められた金額で株式を取得できる権利)を活用する増資の手法。既存の株主に対して新株予約権を無償で割り当てる(会社法第277条)。株主は権利を行使するか、新株予約権を市場で売却することができます。公募増資や第三者割当増資では、発行済株式が増える際に既存株主の持株比率が低下するおそれがあるが、ライツ・オフリングはそうした希薄化の影響を軽減できる。

### 「Jトラスト(株)第4回新株予約権」の概要

項目	内容
(1)新株予約権の名称	Jトラスト株式会社 第4回新株予約権
(2)新株予約権の目的となる株式の種類及び総数	新株予約権1個につき当社普通株式1株。総数で62,816,288株を予定
(3)発行する新株予約権の総数	株主確定日(2013年5月30日)における当社発行済株式総数から同日において当社が保有する当社普通株式の数を控除した数
(4)新株予約権の発行価額	無償
(5)新株予約権1個の行使に際して出資される財産の価額(行使価額)及び目的となる株式	1株(1個)につき1,800円(注1)
(6)新株予約権の権利行使期間	2013年7月5日(金)から2013年7月30日(火)まで(注2)

(注1)本ライツ・オフリング公表前日(2013年5月13日)における、当社普通株式の終値4,195円の42.9%に相当する額  
(注2)実際に行使請求手続きを行うべき期間については、各自の口座管理機関にお問い合わせ下さい

### 最大3つの用途を目的とした資金調達を実施

M&A資金等	国内外の既存事業の強化を目的に、最大1,094億円をM&Aや債権買い取り等に充当予定
親愛貯蓄銀行への増資資金	BIS規制上、債権残高の拡大に応じて、最大25億円の増資の予定
整理回収機構への繰上弁済	同社との合意ができた場合、最大225億円の繰上弁済の可能性

### 「Jトラスト(株)第4回新株予約権」のスケジュール

2013年5月31日	新株予約権上場日
2013年7月5日	新株予約権行使期間開始日(予定)
2013年7月23日	新株予約権の最終売買日
2013年7月24日	新株予約権の上場廃止日
2013年7月30日	行使期間満了日

### Jトラストグループの事業概要と成長戦略に関する個人投資家向け説明会 開催

Jトラストグループは、個人投資家向けに成長戦略に関する説明会を下記概要で開催します。

開催日時 平成25年6月15日(土)  
14:30開場 15:00開演  
16:00終演(予定)

会場 大手町サンケイプラザ  
(東京都千代田区大手町1-7-2)  
各線「大手町駅」下車  
A4・E1出口直結

詳しい申込・問い合わせは  
Jトラスト株式会社 株主・投資家様専用ダイヤル  
☎0120-461-375  
受付時間:9:00~18:00(土日・祝日含む)

当説明会以外にも、個人投資家向け説明会を開催しています。詳細はJトラスト株式会社ホームページにてご確認ください。  
<http://www.jt-corp.co.jp/ro/index.html>

(注意)本広告は当社の株主等への一般的な情報提供を目的としたものであり、当社の株式又は新株予約権への投資勧誘を意図するものではありません。当社の株式又は新株予約権の取引又は行使については、当社が金融庁に提出している有価証券届出書を熟読の上、投資家の皆様ご自身の責任と判断で行っていただく必要があります。本広告に記載された計画、目標、予測、見込みその他の将来情報は、現時点における当社の主観的な判断であり、実際の業績又は結果とは大きく異なる可能性があります。